

初見

〔後撰和歌集十九〕おなじ家にひさしう侍りける女の、美濃國におやの侍ける、とぶらひにまかりけるに、
藤原きよたゞ

今はとて立かへりゆくふるさとのふはのせきちにみやこわするな

〔新撰姓氏錄右京皇別〕和氣朝臣

神功皇后、征伐新羅、凱旋歸、明年、車駕還都、于時、忍熊別皇子等、竊構逆謀、於明石堺備兵待之、皇后臨識、遣弟彥王、於針間吉備堺、造關防之、所謂和氣關是也。略

○按ズルニ、是レ關ノ史冊ニ見エタル初ナリ、

〔和漢三才圖會六十五〕白川關 在白川郡城下

地名雖稱川非川、而山溪間也、孝德天皇朝所立、是諸國關之最初也、

○按ズルニ、享祿本類聚三代格ニ載スル所ノ、承和二年十二月ノ官符ニ、應准長門國關勘過白河菊多兩刻事ト題シテ、其文ニ、右得陸奥國解備、檢舊記置刻以來、于今四百餘歲矣、ト見エタリ、今之ヲ逆算スルニ、凡ソ允恭天皇ノ朝ニ當レリ、果シテ此ノ如クナラバ、三才圖會ノ説ク所恐クハ誤アルベシ、

關屋

〔運步色葉集勢〕關屋源氏卷

〔類聚名物考地理五〕關屋 せきや

關所有る所のその屋かたをいふ、下總國に關宿といふ所有り、是もせきやどりの所なるべし、源氏物語に關屋の卷あり、

〔續日本紀三十六〕寶龜十一年六月辛酉、伊勢國言、今月十六日己酉巳時、鈴鹿關西内城、大鼓一鳴、

天應元年三月乙酉、伊勢國言、今月十六日午時、鈴鹿關西中城門、大鼓、自鳴三聲、五月甲戌、伊勢國言、鈴鹿關城門、并守屋、四間、始十四日至十五日、自響不止、其聲如以木衝之、